

## 学会参加奨励金報告書

学籍番号：R23-051

名前：長岡晃司

学会名：第 41 回 日本診療放射線技師学術大会

開催場所：福井県福井市 AOSSA 他

開催期間：2025 年 9 月 12 日～2025 年 9 月 14 日

発表セッション名：発表なし

発表形態：発表なし

発表日時：発表なし

### 1. 発表の概要

（発表していません）

### 2. 質疑応答内容 他

（発表していません）

### 3. 関連発表の内容

（発表していません）

### 4. 学会参加の感想

今回、学会には 2 日間参加しました。1 日目は、会長公演、FART 企画 3 と FART 特別公演 2 に参加しました。

会長公演では、現在の技師会の状況や、活動内容、今後の診療放射線技師像などを知ることができ、今後のためになるお話を伺うことができました。特に驚いたことが、ワクチン投与を診療放射線技師も行う方向になっていることを初めて知り、告示研修の静脈路確保含め、少しの不安と緊張を感じました。

FART 企画 3、救急 RT についての公演では、現場の技師が、いち早く気づくことで回避できる事案などをクイズ形式で発表されていました。現場では、患者さんの訴える症状にいち早く対処することで防げる事故が多いことを知り、実際に働き始めたら、その症状と原因、対処法をしっかりと把握し、業務を行なおうと思いました。

特別公演 2 は、福井県の経編生地を作る会社の社長さんのご講演でした。現在使われている心臓パッチは伸縮性がなく、小児がその心臓パッチを使用すると成長したら再手術を行う必要がありました。そこで、開発されたのがこの経編を使用したパッチです。これは伸縮性があるため、成長後もパッチの交換手術が必要ないところで、とても画期的な技術だなと思いました。

2 日目は、FART 企画 5 と放射線治療の口述発表、ランチョンセミナー。また、市民公開講座に参加しました。

FART 企画 5、令和時代の働き方・教育を考えるでは、技師の働きがいと働きやすさ

のバランスの考え方についてと、各世代の技師の考え方の違いについてのお話がありました。村中先生のお話では、多くの人が働きやすさを重視する傾向があるのに対し、放射線技師は働きがいを重視する傾向があると聞き、自分もその傾向があると思いました。新しい装置が入ると勉強するために残ったりするとのことで、私も就職したらそういう生活をしていそうだなと思いました。

放射線治療の口述発表では、霜村先生や新林さんの発表を聞き、ただひたすらすごいなと思いました。質疑応答などを聞いていて、人によって考え方には差異があり、その中で自分の主張をしっかりとるところが、自分にはできないなと思いました。また、治療などの講義で習った単語が出てきて、実際にはこう使われるのかと勉強のモチベーションを上げるいい機会となりました。

ランチョンセミナーでは、GEのセミナーに参加しました。装置のシステムについての運用報告でしたが、その中で特に印象的だったのが、撮像スライスや角度を前回撮影したものに自動で合わせる機能です。技師が中途半端に設定をするくらいなら装置が設定したものを使う方が、フォローアップ画像を作成するという観点では適しているとのことで、Deep learningの性能にとても驚きました。

市民公開講座では、遠山先生の手伝いをしました。先生が中高生を呼び込み、骨の説明や学校生活についての説明をする際、在学生として質問に答えるなどをして、広報活動の一端に係りました。普段はそのような生徒さんとか係ることがないため、複雑なことを簡単に説明することの難しさを知り、とてもいい経験ができました。

(1250 文字)

## 6. 現地参加がわかる写真(4枚)

